別紙様式1

令和8年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立第二中学校　　校番（ 22 ）

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し,次代を担う生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け，郷土から愛される生徒の通う学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	基礎学力の定着と個別最適な学びの充実	○思考力・判断力・表現力等の育成をめざした授業改善 ○家庭学習の習慣化と授業への活用	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※授業がよくわかる／家庭学習の項目「1.3.4」	90%	93.6% 85.2% 57.0%		87.3%	B	・「授業がよくわかる」は93.6%で目標値を上回った。「提出物を確実に出す」は85.2%で目標値を下回ったが，目標値に対する達成度94.7%だった。落ち着いて授業に取り組む場面が増えてきていると考える。 ・家庭学習への取組は57.0%で目標値を大きく下回った。家庭で予習復習の効力感・必要性を実感させられていない。	・1人1授業研究に1人年間2回以上参加し、授業改善を行なっていく。 ・家庭学習の取組について、教務部研究担当を中心に、効力感・必要性を実感させるよう取り組む。また、アンケート調査の結果を保護者に伝え、各家庭への協力をお願いする。	○			・テスト範囲発表の繰り上げによる計画的学習の定着や、教え合いで理解を深める取組、ICTを活用した授業展開は成果。
			○ICT機器を積極的に活用した学習活動	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※ICT機器の項目「11」	90%	95.4%		106.0%	A	・ICT機器の項目は95.4%で、目標値を上回った。日頃の授業でICT機器を日常的に使用することを通して、必要性や技能の向上を実感しているためだと考える。	・授業だけでなく、家庭学習でも自主学習のツールとして活用を促す。そのために、教職員がICTにかかわる研鑽を積む。	○			・単元の重点、間違いやすいポイントの明示が大事。また、家庭学習の習慣化（意識改革）、「覚えたか」等の定着度を自分で確認する力の育成が必要ではないか。
		学習分析を基にした授業改善と探究的な学習(PBL)の充実	○学習分析事業等による定着状況の把握と改善に向けた取組 ○総合的な学習の時間での生徒の主体的な学習の場の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「6.7」	80%	90.2% 61.0%		94.6%	B	・協働的な学習の項目は90.2%で目標値を上回った。特に、「ペア学習やグループ学習で、自分の考えを伝え、人の意見を聞いて学習を深めている」という項目は90.2%が肯定的に回答している。研究授業や日頃の授業において、協働的な学びを授業展開に位置付けて授業づくりをしている成果であると考える。 ・「意見をまとめてわかりやすく説明している」という項目は61.0%であり、意見の交換だけでなく表現を工夫した学び合いが課題であると考える。	・今後も教務部研究担当を中心に、学力向上や主体性の向上に向けて取組を進めていく。 ・各種学力調査と学習環境調査(icheck)の結果をもとに、より効果的な指導改善を図る。	○			・誰もが安心して発言・質問できる学習環境づくりと、家庭との連携強化を大切に進めてほしい。
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	○生徒指導・教育相談活動の推進	○生活四訓の徹底 ○デイリーの取組やいじめアンケートの実施による状況把握 ○SC,SSWを含めた組織的な対応	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※自らあいさつ「5」 不登校の人数	80% 6% 以下	86.5% 3.4%		105.5%	A	・あいさつについての肯定的な評価は86.5%で、昨年度末70.8%であり、15.7ポイント上回っている。 ・不登校生徒数は9月末の段階で13名である。	・体育大会等の行事や生徒会活動として取り組んでいる。部活動ごとのあいさつ運動を今後も生徒会と連携しながら進めていく。 ・「金のルール＋1」の一環として、学活・集会等であいさつの意識高揚を図る。 ・不登校に関して、各担任・SSW・SC等と教育相談委員会等で連携をとりながら組織的な対応を継続して行っていく。	○			・落ち着いた学習態度や統一感のある掲示、整理整頓された教室環境、一人一人を肯定的に認める指導により安心して学べる様子が伺える。 ・他者の目を気にして表現や質問を躊躇する傾向が見られるため、動画活用等の客観的な振り返りを通じた工夫等のアプローチを期待する。 ・防災教育やコミュニティスクール（CS）を通じた地域との連携、生徒どうしの関わりを深め、豊かな心と協働する力を育んでほしい。
		○道徳教育の充実	○協働的な学び合いの場を仕組み、議論する道徳の授業改善	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「12.13」	90%	87.4% 92.7%		100.1%	A	・道徳の授業が好きだと感じる生徒は87.4%で昨年度末より4.1ポイント上回っている。 ・道徳の授業の必要性や生きていく上で大切なことを学んでいるという意識は92.7%の生徒が感じており、昨年度末とほぼ同等である。	・道徳教育推進教師を中心として、道徳科の授業と評価について校内研修や情報共有を進める。 ・道徳に係る校外での研修及び授業参観での教職員の学びを全教職員に還元する。また、授業参観により経験年数の少ない教職員の授業力向上を図る。	○			
		○生徒会活動の充実	○生徒の主体的な場の設定や肯定的評価	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「7.9」	90%	91.3% 95.2%		103.6%	A	・昨年度末と比較して、「委員会、係の仕事等に責任を持って取り組み達成感を感じている」は0.6ポイント増加、「学校行事などではみんなと協力し、一生懸命取り組み達成感を味わうことができる」は、2.3ポイント増加している。各種委員会のはたらきや学校行事等を通して、達成感を感じている生徒が多い。	・生徒会執行部及び各種委員会のリーダーと担当教職員が密に連携し、生徒がより達成感をもつことのできる委員会活動を行う。 生徒の活躍を全校・学級等の様々な場で評価し、主体性を高める。	○			
働き方改革の推進	生徒と向き合う時間の確保	○長期的な展望をふまえた、効率的な業務改善の推進	○業務のスクラップ＆ビルドによる業務改善 ○週に1日5時間授業、定時退校日の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※教職員の業務改善の項目「8」	90%	86.6%		96.2%	B	・「少しでも早く退校できるように業務改善に努めている」という項目は肯定的回答が86.6%であった。昨年度末90.9%より4.3%下回っている。 ・水曜日を部活動休養日・定時退行日(勤務終了時刻から1時間以内の退校が目標)、5校時の日として取り組んでいる。	・業務改善に関するアンケートを実施し、今年度の実態に応じたアイディアを集約・取捨選択し、改善に活かす。 ・早く退校できるよう、日頃から優先順位を意識して業務の計画を立てるとともに、定時退校日の実施を徹底する。	○			・デジタルツールの活用や工夫により効率的な授業準備が進んでいる点はよいが、長時間勤務削減には組織的・継続的な取り組みが必要である。
		○長時間勤務の縮減	○学校組織のスリム化と業務スケジュール管理の徹底	勤務時間外の在校時間45時間以内の者の割合	70%	51.8%		74.0%	C	・勤務時間外の在校時間が45時間以内である者は、9月末までのべ168名中87名、51.8%であった。昨年度同時期は66.7%（年度末63.6%）であり、下回っている。	・主任主事や他の分掌担当が扱うデータの保存フォルダを明確化・簡素化し、効率的に業務を行える環境を整える。 ・毎週水曜だけは早期退校できるよう、計画的に取り組む。	○			・教員の負担軽減には部活動の地域展開は必須だが、学校の取組にとどまらず、地域認定クラブ等の受け皿との連携や家庭の教育力向上に向けた働きかけも進めてほしい。

【j:自己評価　評価】
A:100≦（目標達成）　B:80≦（ほぼ達成）＜100
C:60≦（もう少し）＜80　D:（できていない）＜60

【l:学校関係者評価　評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。